RCC スクール

「＃湯﨑知事と語ってみた」in 呉

とき　令和４年７月 26 日（火）

ところ　呉市きんろうプラザ（ビュー・ポートくれ）

目次頁

開会 2

自己紹介 2

ひろしまビジョン説明 4

意見交換 5

話題提供（呉商業高校・広島なぎさ高校・安田女子高校・呉三津田高校）.... 7

閉会 15

開会

司　　会：　お時間となりました。これより「RCC スクール 湯﨑知事と語ってみた」supported by 田宮パーツ開会です。

知事，第３回になりました。今回もよろしくお願いいたします。

このイベントは，こういう形で第３回を迎えたわけですが，県内の高校生と湯﨑知事に，本音で語ってもらおうといったものです。この模様ですが緊張しないで結構なのですが，RCC のアプリ IRAW で配信されておりますので，ぜひ友達などに雄姿を見せてあげていただきたいと思います。

自己紹介

司　　会:　それでは参加者の自己紹介いきたいと思います。誰からいくかということなのですが，志願がおられますか。

志願の安田女子高校，川口さんから順番に自己紹介をお願いします。

川　　口：　安田女子高校の川口珠季です。実は図書委員長で，最近買った本は参考書です。

司　　会：　図書委員長が参考書買ったんですか。

川　　口：　やっぱり受験生なので，買おうかなと思って。

司　　会：　予算の使い方というところでは，知事もいろいろと意見あると思います。後ほど意見が膨らむと思います。よろしくお願いします。

川　　口：　お願いします。

司　　会：　続きまして，順番にお願いします。

上　　田：　同じく安田女子高校の上田彩乃です。実は３カ国語しゃべることができます。よろしくお願いします。

司　　会：　言われると振られますよ。ひと言だけお願いします。

上　　田：　何語が，韓国語か中国語か。

司　　会：　中国語でお願いします。

上　　田：　挨拶程度でいいですか。「～（中国語）～。」

司　　会：　すみません，なんて言ったんでしょうか。

上　　田：　こんにちは，私は上田彩乃ですといいました。

司　　会：　ありがとうございます。これ以降は日本語しか振りませんので，よろしくお願いします。

呉商業から３人ということで，順番に自己紹介お願いします。

松　　尾：　呉商業高等学校，３年生の松尾丞之介です。こう見えて実は不真面目です。

司　　会：　聞かないほうがいいのか，聞いたほうがいいのか，どう不真面目なんですか。

松　　尾：　生徒会で難しい仕事が回ってきたら，大体，執行部員に回して自分は楽な仕事とっています。

司　　会：　これは知事，ひと言コメントいただきたいです。難しい仕事がふってきたときに，周りに振るということなんですが，この取り組み方というのはどう考えられますか。

湯 﨑 知 事：　両論ありますね。

司　　会：　両論ありますか。

湯 﨑 知 事：　人に仕事をふるというのは大事なことですが，他方で苦労を引き受けるということも大事なので，どっちもありかなと。

司　　会：　勉強になりましたね，松尾さん。

松　　尾：　ありがとうございます。

司　　会：　ありがとうございます。

続きましてお願いします。

山　　根：　同じく呉商業高校の山根佑斗と申します。小学校のときに水泳をやっていて，中学校では吹奏楽部に入部していました。トランペットをやらせていただいておりました。今やっている趣味としてはお菓子を作るという，男としてはちょっと恥ずかしいのですが。甘いものが結構好きで，知事は何が好きですか。

湯 﨑 知 事：　甘いものですか。

山　　根：　はい。

湯 﨑 知 事：　甘いもの。そうですね，いろいろと好きですが，プリンとか。

司　　会：　知事，プリンお好きなんですか。
湯 﨑 知 事：　駄目ですか。
司　　会：　ギャップが。
湯 﨑 知 事：　ギャップ激しいですか。
司　　会：　議会のイメージとかでいきますと。
湯 﨑 知 事：　議会では食べないですが，プリントかシュークリームとか。
司　　会：　意外ですね。
湯 﨑 知 事：　何でも好きですよ甘いもの。ケーキは何でも好きです。
司　　会：　お誕生日とかもケーキで祝ったりされてきたのですか。
湯 﨑 知 事：　もちろんです。
司　　会：　山根さん，いつか差入れお願いします。
山　　根：　言われれば，やりたいと思います。
司　　会：　続きまして，曽根さんお願いします。
曽　　根：　同じく呉商業の２年，曽根歩夢です。中学校のときは野球部に所属して，今はバレー部に所属しておりますが，運動することはあまり好きじゃありません。
司　　会：　えっ，すみません，今なんて言われました。
曽　　根：　運動することは，あまり好きじゃないです。
司　　会:　御謙遜。主力選手だという情報は入っていますので，この後の大会頑張ってください。
曽　　根：　ありがとうございます。
司　　会：　それでは続きまして，お願いします。
高　　橋：　呉三津田高校の高橋奏羽です。こういう自己紹介の場で僕がよく使う話なんですが，皆さん僕は何部だと思いますか。
司　　会：　野球とか。
高　　橋：　実は僕，吹奏楽部なんですよ。吹奏楽部で部長をやらせていただいています。さっき吹奏楽部やっていたという話があって，個人的にはすごく親近感が湧いた感じです。吹奏楽部なんですが，他の部活，例えば放送部だとかにも足を突っ込んだりして，いろいろな活動をやらせていただいています。
司　　会：　今日はよろしくお願いします。
高　　橋：　お願いします。
司　　会：　野球部かと思ったら違ったんですね。
　続きまして広島なぎさ高校，金田さんお願いします。
金　　田：　お願いします。金田湖雪です。
司　　会：　今日は暑い一日ということで，ちょっと涼しくなるような名前の由来の紹介をお願いします。
金　　田：　分かりました。私はこゆきって湖に雪と書くのですが，母が湖に雪が降っている景色が好きで，それが名前の由来になりました。
司　　会：　いやあ高橋さん，聞いているだけで涼しくなったでしょう。
高　　橋：　はい涼しげというか，きれいな感じでいいなと思います。
司　　会：　合わさせたみたいな感じで。
　そして今回も，スペシャルサポーターとしまして，STU48 から峯吉愛梨沙さんが参加です。峯吉さんよろしくお願いします。
峯　　吉：　STU48 の峯吉愛梨沙です。呉はめちゃくちゃ好きなので，今日は来られてすごくうれしいです。よろしくお願いします。
司　　会：　峯吉さん，前回も参加されましたが，同年代から受けた刺激というのはどうですか。
峯　　吉：　なんだろう，同年代の方と話すことってあまりないので，すごくみんなこんなこと考えてるんやってすごく驚きました。今日は楽しみにしています。よろしくお願いします。
司　　会：　よろしくお願いします。
　そして配信御覧の皆さんもどうぞこのイベント，この後，高校生たちがいろいろな本音を知事にぶつけていきますので，最後まで御覧いただきたいと思います。
　それでは冒頭に湯﨑知事より御挨拶と，そして皆さんに聞いていただきたい「ひろしまビジョン」この概要を教えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

ひろしまビジョン

湯 﨑 知 事：　皆さんこんにちは。広島県知事の湯﨑です。ちょっとぎりぎりに滑り込んで，皆さん

御心配おかけしてすみませんでした。

今日はこのRCCスクールで，また呉の皆さんを中心に，呉以外も御参加いただいているんだと思いますが，いろいろと皆さんのお話お伺いできればと思います。

その前に私のほうから，広島県の今の我々がどんなことをやっているか，どんな考えで，どんなことをやっているかを御説明をさせていただきたいと思います。

具体的には，今ここに出ているように，安心▹誇り▹挑戦 ひろしまビジョンというものなのですが，これはよく一般的に言われる言葉でいうと，総合計画と言われるものです。

計画ですが，10年後の姿を描いていまして，我々はビジョンと呼んでいます。皆さん10年後というと30歳手前ぐらい20代，最も華やかな楽しそうな時期ではないかと思いますが，結婚しているかもしれないし，仕事をしているのかなと思いますが，これからの将来，広島県の目指す姿というのをちょっと想像してみて，共感できるとかまだ足りないなということがあったら，後からいろいろと意見交換できればと思います。

このビジョンの前提になっている認識ですが，こういうふうにいろいろな課題がありますね。少子化とか高齢化というのは前から言われていて，皆さんご存じだと思いますが，あとは右方にあるデジタル化とか。皆さんデジタルネイティブだから，生まれたときからデジタル使っていると思うのですが，あとは今コロナですよね，呉も大変でしたが，大きな災害もありました。これは頻発しています。こんないろいろな課題があって，なかなか将来不透明な感じが強いです。

こういう中で基本的な考えとして，「広島に生まれ，育ち，住み，働いて良かった」と心から思える広島県を実現していこうということで，県民のお一人お一人が「安心」の土台，その上に「誇り」というのを高めていって，そして夢や希望に「挑戦」をしている。そういった姿を描いていきたいと言っています。下のほうに，仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現と書いてありますが，仕事と暮らし，大人の世界では仕事を取るか，暮らしを取るかみたいな，そういうことがよくいわれるのですが，広島県の場合は，どっちかとかではなくて，どっちも自分が満足できるようにしていきたいよねということを目指しています。それなので欲張りというふうにいっているのですが，広島の場合，他にも田舎もあれば町もありますよね。カープもあればサンフレッチェもあるし，最近はドラゴンフライズとかJTサンダースとか，ありすぎて困っちゃうくらいあるのですが。ありすぎて困っちゃうっていったら失礼ですよね。うれしい悲鳴ですよね。

でも欲張りに何でも応援できるとか，もちろん海も山も，海水浴もできればスキーもできるとかね。そういう欲張りな暮らしを，広島実現していきましょうということです。

目指す姿の実現に向けては，やはり先ほど申し上げたように，安心というのがすごく大事です。これが基本にあります。その上で，いろいろな広島の今言ったような欲張りなものとか，みんな誇りに思っていること多いと思うのです。それを高めていく，さらにそれを土台として県民の皆さまが，どこに住んでいても挑戦をできる。そういう社会を作っていこうということです。一人一人のそういった挑戦が，最終的には大きな広島県全体を活性化させていくと思っています。

そういう中で施策自体は，いろいろなものがあるわけですが，それを貫く３つの視点というのがあります。１つはDXの推進。DXというのは皆さん聞いたことあるとは思いますが，デジタルトランスフォーメーションというものです。デジタル技術が今世の中ものすごく変えようとしています。

それから広島ブランドの強化。広島の持っている，先ほどの誇りを高めるというようなもの，我々が持って自慢できるようなもの。これをしっかりと認識をして，そしてそれを強めていこうというものです。

そして最後に人材育成ということで，何をやるにしても人の力があるんですから，デジタルの推進にしてもブランドの強化にしてもそうですし，その他のいろいろな子育て施策にしても，あるいはものづくりにしても人の力ですから，人をしっかりと育てていこうということであります。

施策としては17ほど領域がありますが，今言った３つの視点で貫いて進めていこうと考えています。

以上ですが，皆さん将来のことを考えるときに，今のビジョンを思い出して参考にしていただけるとうれしいなと思います。

司　　会：　ありがとうございます。

意見交換

司　　会：　欲張りというとこれは，呉三津田の高橋さんも，あれもこれも自分でやりながら，どれかをなかなか１つピックアップできないと言っていましたが，そういった意味で話を聞いての正直な感想とか刺激を受けたことってどうですか。

高　　橋：　社会全体でいろいろな不透明なことが多い中で，広島県としてこういうことを軸にしてやっているというのは，普段自分から探しにいかないことなので，すごく何ていうんですか，いろいろなことにも共通することろがあるなと思って，そこはすごく共感したというか，そういう共感があったと思います。

　それで僕自身もいろいろと選べないので，人から見たら欲張りな人なのかなとも思うのですが，僕自身はあまり欲張りと思っていないので，いろいろなことに手を出しながら自分自身を作っていけたらと思うので，そういう意味での欲張りなのかなと思いました。

司　　会：　知事，呉三津田の高橋さんなんですが，放送部の活動とか，いろいろなことやって頑張っているんですが，知事，高校生時代思い出していただいて，どうですかいろいろとチャレンジしてみるという姿，どんなふうに感じられますか。

湯 﨑 知 事：　それはすごく大事なことですよね。いろいろな経験の中から，自分の引出しというのができていくので，引出しは多いほど力が発揮できるようになると思いますから。今はとにかくその引出しを増やしていくということは，とても大事なことだと思います。

司　　会：　ありがとうございます。

　それではせっかくなので広島県での就職または起業，暮らしについて，このあと将来的に広島で働きたいあるいは起業したい，暮らしていきたい。マルかバツで皆さんに答えていただきたいと思います。

　お手元にフリップ用意しておりますので，マルかバツか記入していただきたいと思います。２人，３人で参加の学校の方はシェアしていただいて，うまい形で書いていただきたいと思います。

　峯吉さんもやりましょう。峯吉さん前回マルだったんですが，多感な時期ですから気持ちがいつ変わるか分かりません。峯良さん毎回やっていただきたいと思います。

　どうでしょう書けましたでしょうか。それではなんとなくテレビ風に，正面に向かってドンという感じで出していただきたいと思います。

　せーのドン。峯良さん，前回マルが二重マルになっています。

峯　　吉：　はい。やっぱり前回よりも皆さんの意見を聞いて，広島で働きたいと思ったので，二重マルにしておきました。

司　　会：　いいですね。ありがとうございます。二重マルになった。

　一方で呉三津田の高橋さん，三角ということなのですが，気持ち的には揺れ動いていますか。

高　　橋：　そうですね。僕もさっき話したように，いろいろなことをやっているのもあって，自分が何をしたいのかが正直分からないところがあって，将来のことを考えるのも正直得意ではないので，どこで働くかというよりも，何をしたいかもまだ全然分かっていない状況です。

司　　会：　そして一方で，安田女子高校の川口さんバツということで，こういう場なので遠慮なく意見を教えてください。

川　　口：　やっぱり高校生なので，広島しか住んだことがないというのもあって，いろいろなところを見て最終的に広島，というのもあると思うし，いろいろなところを見て決定したいというのがあるのでバツにしました。

司　　会：　これ毎回いろいろな高校生から出る意見で，知事からもお話しいただくのですが，知事もいろいろな経験とかいろいろな土地とか，いろいろな環境に身をおかれて，だからこそ得られたものって，改めて教えてあげていただいてもよろしいですか。

湯 﨑 知 事：　そうですね。先ほど高橋くんがいろいろなこと，今興味がありますというお話されていたと思いますが，それと同じことだと思うのです。

　やっぱりいろいろなところを見てみるとか，いろいろなことを体験してみることはとても大事なことだと思いますし，僕がこういうのもなんですが，広島にいなくてはいけないということはないと思うのですよね。自分がやりたいことを，やりたいところでやればいいと思います。

　地域としては，それでどんどん広島から人がいなくなっちゃうと困るのですが，それ

は広島の魅力だとか，例えば仕事とかですね，提供できる仕事とかで他の地域から広島に来てくれればいいわけですから。僕らとしては,そういう全体としての魅力を高める。その中で個人個人が，選択をしてくれたらいいのかなと思います。

司　　会：　まさに毎回，そういう場ということであって，この後も遠慮なく意見ぶつけていただきたいと思います。

呉商業の松尾さんが，いち早くマルとされましたが，広島でやりたいこととか，ちょっと頭にあったりするのですか。

松　　尾：　私は将来は広島で起業したいと考えています。

特に広島はレモンだったりネーブルオレンジだったり，収穫量が１位なので，そういう特産品を生かした食品を販売する会社を経営したいと考えています。

司　　会：　知事，広島県も割と新しく何かやろうという方を，起業も含めてバックアップする，そういった姿勢，結構整っていますよね。

湯 﨑 知 事：　今，起業創業支援というのはすごく力を入れていますし，その中からユニコーン 10 というのもやったりしているんですが，ユニコーンというのは企業価値が１千億以上になるような会社です。

呉出身ですか，レモンとかネーブルとか呉らしい，呉の島々で特にたくさん作られていますから，それをビジネスにしたいというのはとても頼もしいですよね。

今，広島駅とかあるいは空港に行っても，お土産コーナーでレモンすごくいっぱいあるじゃないですか。レモンコーナーとかね。皆さんまだ 17，18 ぐらいだから知らないかもしれないですが，10 年前ってほとんどなかったんですよね。なかったですよね。

司　　会：　もみじまんじゅうがかなり。川通り餅。

湯 﨑 知 事：　もみじまんじゅう，川通り餅とかね。レモンのお菓子は，ほとんどなかったですよ。最近はレモンのお菓子増えていますが。レモンのブランド化だとか栽培の促進だとか，そういうのを県としてずっとやってきて，今それがこういう形で花開いているということにつながっているのですが。これから将来もっともっとレモンとか増やしていきたいので，それを販売するほうね，とっても大事なことですから楽しみですね。

司　　会：　知事，楽しみなことに事前のリサーチ，松尾さんはそういった起業をしたい。山根さんはあれですよね，作りたい。

湯 﨑 知 事：　パティシエね。

司　　会：　パティシエ。

湯 﨑 知 事：　パティシエ，いやスイーツでしょう。

司　　会：　スイーツ男子。

湯 﨑 知 事：　スイーツ男子。最高のコンビじゃないですか。

司　　会：　最高のコンビ。どうですか一緒にやろうとか，何か頭の中で描いていることは。

山　　根：　自分も何か，いつかパティシエになれたら，地元の果物とか使えるんだったらいいなと思っていて，意見が合えば，ぜひやりたいと思います。

司　　会：　意見が合えば。

湯 﨑 知 事：　おいしいスイーツを作って，それを松尾くんが世界に売り出すみたいな。それでユニコーンになりますみたいな。いいじゃないですか。

司　　会：　こうやって人が，意見とかつながっていくことが大事なんですよね。

湯 﨑 知 事：　そういうことですよ。結構，フェイスブック，フェイスブックは違うな。例えばアップルもスティーブ・ジョブズと，なんとかウォズニアックさんという。お友達が起業してああいう会社になったり，マイクロソフトもそうですよね。ビル・ゲイツ目立っていますが，あれはやっぱり大学の同級生なのかな，２人で創業してというのが始まりだから，そういうパターンよくあるので。グーグルも大学院のお友達２人が一緒に創業したという形ですから，２人でペアになって世界のスイーツ王国を目指して。

司　　会：　スイーツ王国。

湯 﨑 知 事：　いやいや，お菓子メーカーとかね，例えばネスレ，皆さんコーヒーとか知っているかもしれないですが，でも世界中にお菓子を売っているし，そういう会社は実は結構あるので，世界を牛耳るお菓子会社どうですか。

司　　会：　夢がありますね。

湯 﨑 知 事：　広島のレモンとかネーブル使って。

司　　会：　２人にかかっていますので。

STU さんと何かコラボ，どうですか。毎回いいアイデア出してくださいますが，レモン，呉，スイーツ，何かこうさらにそこに彩りを加えるアイデアをくださいよ。

峯　　吉：　そうですね。ちょっと前にもみじまんじゅうとSTU48がコラボして，レモンジュレ味みたいなもの出したことあるんですよ。それなのでまた呉のフルーツを使ってコラボできたらお願いします。

司　　会：　湯﨑知事あれですよ。こういうのって大人でも，普段お酒飲んだりしながらいろいろな話をして，意外と人のつながりで，掛け算でビジネスすごく変わることってありますよね。

湯 崎 知 事：　というかベースでいえば，それしかないんじゃないですか。STU とコラボして新しい商品作ってもいいかもしれないですが，まずはプロモーションしてもらったら，高校生とかにバカ売れしそうじゃないですか。

司　　会：　確かに。

こういう場で友達作って帰って，さらに広げていただければと思います。

ちょっと時間の関係で全員触れられませんが，マル，三角，バツ。この後意見も，峯岸さんみたいに毎回変わったりするかもしれませんので，そういった意味で，日々過ごしていただければと思います。フリップありがとうございました。

話題提供

司　　会：　さてここからは，皆さんにテーマを持ち寄っていただきまして，緊張しますね，元気よくお願いしますね。湯﨑知事に話題提供，こんなこと考えています。それで質問があったら，ぶつけていただくという形にしていきたいと思います。

まずは呉商業高校の生徒会長，松尾さん。松尾さんからちょっとテーマの提供をお願いします。

参加者①

松　　尾：　呉商業高等学校では，呉商業高校を紹介するスライドを作ってきたので，ぜひ聞いてください。

実は呉商業高等学校では，生徒会で一人一役制度というものを実施しています。この一人一役制度は生徒全員が委員会に入るという制度です。

多分，一般の学校だったら体育委員だったり，風紀委員というのがメインになってくると思うのですが，全員が所属するということだけあって，ボランティア実行委員だったり，三年生送る会実行委員，またクラスマッチ実行委員や合唱祭実行委員といった特殊な委員会が多数あります。

またこの一人一役制度を実施する意味というのは，一人一人が責任を持って仕事をこなすことで，達成感を得ることができます。その達成感が生徒一人一人の自信につながればいいなと考えています。

これは実際の委員会の様子です。左下にあるこれはあしなが募金といって，先ほど紹介した，ボランティア実行委員さんが働いてくれています。この集めた募金は親とかがいない孤児たちに寄付するための募金です。

また右下の合唱祭では，裏方で合唱祭実行委員が働いています。右上も同じくボランティア実行委員さんが一緒に掃除を手伝ってくれました。左上は体育祭です。これは主に体育委員の人たちが，障害物競走のネットの準備をしてくれている写真です。

ここで湯﨑県知事に質問があります。県の職員をはじめ県のトップとして，人をまとめる方法や組織を統率する方法を教えてほしいです。

司　　会：　聞きたいですね。よろしくお願いします。

湯 崎 知 事：　何ていうんですか，統率とかまとめるというか，あまりそういうこと意識していないのですが，やっぱり価値観というのがすごく大事。学校とかとちょっと違うんですよね。県庁とか会社とか，そういうところでは価値観を一致させていく。

例えば広島県だと僕がずっと言っていることに，真の県民起点の徹底と現場主義と，それから成果志向。これはもともとは予算志向から成果志向への転換というのがあるのですが，３つの視座といっていて，それを徹底的にみんなで共有するということです。その上で一人一人が自分で考えて，そこにその考え方に合わせながら，どういうふうに自分の仕事の中で，それを実行していくかということをやってもらう。それが力を発揮する素になるということだと思うのです。だから組織として力を発揮するためには，ベクトルがバラバラになっていると力が出ていかないので，それを合わせていくということがとても大事。あとはそれぞれが自律的に動いていくというふうにするのが大事なこ

とじゃないかと思います。
松　　尾：　ありがとうございました。
司　　会：　実は松尾さんが今，生徒会長で，曽根さんが次の生徒会長に内定されているということで，知事，曽根さんも今結構プレッシャーがあって，曽根さんも実は聞きたいんですよね。曽根さんからも知事に，次期生徒会長ということで。

参加者②
曽　　根：　僕，次期生徒会長になるんですが，隣にいる生徒会長の松尾くんを超えるというか，並べるためにも努力しないといけないので，プレッシャーが結構あるのですが，そのプレッシャーに打ち勝つために湯﨑知事はどうしていますか。
湯 﨑 知 事：　競争じゃないから，あまり超えるとか意識しないで，自分のやりたいこと，やるべきことを推し進めていってくれたら，いいんじゃないかなと思いますね。そういう意味では自分がライバルだよね。
司　　会：　前任，歴史があるじゃないですか，県の仕事にしても会社の仕事にしても。最初の頃ってよぎるものですか。
湯 﨑 知 事：　よぎらないです。
司　　会：　あっ，よぎらない。それよりもビジョンとか，こういう広島県をという。
湯 﨑 知 事：　何をやるべきか，どういうふうにやるべきかを考えてそれを進めるという。そういうことかなと思います。
司　　会：　ひょっとすると曽根さんは，今，松尾さんという大きい存在がありますが，そうじゃなくて呉商業をどうしていくかという。
湯 﨑 知 事：　そうそう，そういう中でみんなが共有できる原理原則みたいなところがあるじゃないですか，学校のなんだろうね，学校にも目指すところがあったりすると思うのですが，みんなが，一人一人がどう考えてそれを実行していくかとやってもらうと，結局，学校の力というのも曽根くんの力ではなくて，みんな一人一人の力が合わさったものじゃないですか。それをいかに引き出すかという，そういうことじゃないかと思います。
曽　　根：　ありがとうございます。
司　　会：　実は呉商業の山根さんからも話題提供があるということで，山根さんよろしくお願いします。

参加者③
山　　根：　呉商業では，毎年 12 月に呉商フェスタというものを開催していまして，これから曽根くんがお配りする名刺があるのですが，これが模擬「株式会社 呉商」の名刺となっています。
司　　会：　名刺の形になっていて，すごいですね。
　模擬であるのですが，「株式会社 呉商」と。
山　　根：　社員と教職員が 1,000 円の株式を購入して，株主兼社員として模擬「株式会社 呉商」を経営しています。今年度は 12 月３日と４日に実施予定になっています。
　クラスごとに，さまざまな企業との取引から販売，会計処理までを行います。主な役職として営業部・経理部・総務部があります。営業部は接客などを行い，経理部はレジとか最後の簿記の帳簿をあわせたりします。
司　　会：　ということはこの３人も，何か役付きでいらっしゃったりするのですか。
山　　根：　松尾くんは副店長という役職で，自分は経理部の主任をやらせていただいています。曽根くんは営業部で広報をしています。
司　　会：　生徒会長兼副店長。うまくいっているような感じでおもしろいんですが，知事にちょっとアドバイス求めたい，聞きたいことがあると。
山　　根：　私たちは呉商フェスタに，少しでも来客してもらいたいという希望があって工夫をしているのですが，お客さんが増えるようにしたいのですが，どういうふうにしたらいいのか，知事からアドバイス聞きたいです。
司　　会：　コンサルタントみたいになっていますが。湯﨑コンサルタント，よろしくお願いします。
湯 﨑 知 事：　それって大事なことですが，政策とかでも同じようなことがあるのですが，例えば何か政策をしたときに，たくさんの人に使って欲しいとかあるのですが，そのときに大事なことは，マーケティングを呉商だから勉強していると思いますが，マーケティングという枠組みをせっかく習っているし，当てはめてみたらいいと思うんですよ。

マーケティングの基本的な考え方でいうと，例えばどんな人に来てほしいですかとか考えるわけじゃないですか。どんな人に来てほしいか，それじゃあこんな人たちに来てほしいと思ったら，その人たちに情報を伝えるためには，どんな情報伝達がいいだろうと考えるわけじゃないですか。

例えば，おじいちゃんおばあちゃんに来てほしかったら，それこそインスタとかでやっても駄目ですよね。市の広報の中に入れてもらうとか。

司　　会：　折り込みとかね。

湯 﨑 知 事：　折り込みとか公民館に張り出すとか，病院に張り出すとかそういうふうになる。

だけど若い子に来てほしかったら，やっぱりインスタとかになるわけで，だから誰に来てほしいか，メインとかサブとかターゲットを決めたら，どういうふうに伝えるか，もちろんその人たちが，おもしろそうだって思わないと来てもらえませんから，RCC もそうですよね。

司　　会：　そうです。

湯 﨑 知 事：　ターゲットの大体時間帯でね，夜中の２時ぐらいにやる番組って，おじいちゃんおばあちゃん対象にしないですから，大体 20 代の夜ふかしの。

司　　会：　日中は青汁とかグルコサミンとか，ああいったことをを重視していく。

湯 﨑 知 事：　そうそう，そういうことと同じで，やっぱり惹きつける中身をターゲットに合わせて作らなければいけないので，おじいちゃん，おばあちゃんに来てほしかったら，無料肩もみしますとか，何かよく分からないですが，そんなのじゃ最近のおじいちゃん，おばあちゃん来てくれないとは思いますが，例えばね。そういうふうに全体を組み立てていったらいいんじゃないですかね。

司　　会：　お客さんをたくさん集めながら勉強にもなるという。

呉商業の３人からすると，こういった学校の問題もありますが，今日は呉ということで，１つ大きな問題，知事に聞いてみたいということでお願いします。

山　　根：　経済を回す観点でいくと，地元呉には日本製鉄所という呉の製鉄所があるんですが，そこが閉鎖されてしまって，地元呉の経済は大打撃を受けることが考えられるのですが，知事としての打開策があったら聞きたいのですが，何かありますか。

湯 﨑 知 事：　そうですね。これは民間企業の意思決定なので，閉じてしまうということ自体はどうすることもできないのですが，問題というか，それをどう影響を和らげるかということで考えると，離職する人がしっかりと次の仕事を見つけられるようにするとか，新しい仕事を生んでいかないといけないので，これまで例えば日鉄と取引をしていたような会社が新しい事業ができるようにするとか，あるいは全く新しい会社とか事業を呉に引っ張ってくるとか，そういったことをいろいろと組み合わせて，影響ができるだけ緩和されるようにしていくことが大事かなと思います。

司　　会：　ありがとうございました。

地元にとっては大きな問題なので，これからいろいろなところで報じられていくと思うので，注意深く見ていただきたいと思います。ありがとうございました。

続きまして，広島なぎさ高校の金田湖雪さん。湖に雪と書いて湖雪さん。湖雪さんから知事に話題提供お願いします。

参加者④

金　　田：　こんにちは。

私は将来，産婦人科医になって広島県の医療に貢献したいと思っています。

そこで地域医療に興味があるのですが，その地域医療について調べたことをスライドにしました。

私が今，知っていることは，広島県は病院完結型から地域完結型の医療に変えて，ずっと広島県に住める取組をしているということです。

広島県の産婦人科の医師数は，1996 年～2016 年にかけて減少したということです。また生理用品の無償化へのクラウドファンディングが行われるなど，女性の活躍を促進する取組が始まっているということです。

私の将来の夢が産婦人科医になって，広島県の医療に貢献することで，なぜ産婦人科医にしたかというと，これから元気な広島県を作るためには，女性の活躍が必要不可欠だと思うので，その女性の月経とか妊娠出産とか，更年期などの不安を少しでも医師として解消したいなと思っています。

先ほどのスライドを踏まえて，知事は何か広島県の医療の課題とか，女性の不安とか

を解消するための必要な政策があったら教えていただきたいです。

湯 﨑 知 事： 今，とてもいいポイントを発表してもらえたと思うのですが，地域治療，広島のお医者さん自体は全体は増えているのですが，大きな課題は，まず若いお医者さんが減っているということと，今，産婦人科もそうですが，産婦人科だけではなくて，麻酔だとか外科もそうなのですが，いくつかの診療科で，お医者さんが減っていたりということなのです。これは偏在というのですが。つまりお医者さんの全体の数が増えても，中身が偏っている。

地域的にもそうですよね。広島市は増えているんだけれども，他の地域では十分ではないとか，そういったことがあります。

今，地域医療については，地域で働いてもらえるお医者さんを育てるために，特別な奨学制度があって，ふるさと枠といっていますが，広大と岡山大学とそれから自治医大にふるさと枠。自治医大とかふるさと枠といいませんが。９年かな，県内で一定の要件を満たす，勤務をしてもらえるとその奨学金を返さなくてもいいという仕組みがあるのです。

産婦人科，本当に足りていないので産婦人科になるというのは，すごく我々もうれしいですし，あとは総合診療医というのも足りていなくて，これは例えば地域，田舎に行くといろいろなもの，いろいろな病気だとかけがを見なくてはいけないですよね。お医者さん１人しかいなくて，いろいろな病気になるので，総合診療医とか地域ですごく活躍している。それも専門医の１つなんですが，そういうものになってもらうとかね。そういうのをすごく期待していますし，これから若い人がそういう中で，しっかりと研修ができるように，今，構想を作っているのが広島の駅前に新しく大きな病院を作って，そこを中心に人材育成をして，また地域にも派遣をしていく。そんなことをこれから進めようとしています。

司　　会： それこそまさにポイントで，女性の活躍という中で，産科や婦人科医が減少してる。やっぱり女性がいい体調で働き続けるために，女性の健康の課題，これもやっぱり大事ですよね。その辺のポイントというのはどうですか。

金　　田： やっぱり女性は月経とかがあって，ホルモンバランスが乱れてしまって，どうしても眠気とか腹痛とか，いろいろと人によって個人差があるんですが，体調不良が生じてしまって，実際私も腹痛とかは結構あって，だからこのことによってビジネスとかの損失が，結構大きいというのが実際にデータで発表されたのを聞いて，やっぱり女性が健康で働き続ける社会を作るというのが，私もそれに関わってみたいなと思いました。

司　　会： これテクノロジーで課題解決とか，新聞で読んだことがあるんですが，金田さん，その辺も調べているんですよね。

金　　田： はい。例えば生理とかだったら，女性に生理用の新しい下着を作ったりして，血が漏れても大丈夫ということで，女性が安心して仕事とか会議に臨めるようにしていくものがあったりして，そういうのも興味があります。

司　　会： いわゆるフェムテックとかいわれますが。湯﨑知事どうですか，一般的に女性が活躍を目指す県って広島県もうたっていますが，女性が活躍しやすい広島県づくり，どんなこと意識されていますか。

湯 﨑 知 事： 職場のカルチャーを変えていくとか，例えばそういう体調の波があることに対して，認識だとか理解がないと，何やってるんだとか，そういうふうになってもいけないし，あるいは男性が特に結婚してから，これまでだと男性がとにかく夜中まで働いて，稼いでみたいな。そういうことを継続していると，家族が成立しなくなりますよね，女性も働いていて。

それじゃあ女性も夜中まで働いていて，男性も夜中まで働いていて，一体子どもの面倒は誰が見るんだという話になるので，それは男性も女性も労働時間は，きちんと管理ができてとかですね。あるいは男性が家事に参画をする。女性が社会参画というのもする。男性が家庭のことに参画をすることによって，お互い分担して，両方が家庭でも社会でも活躍できるようにするとか，そういったようなことですよね。

あとはフェムテックというのも，これからとても期待されている分野の一つなので，いろいろな医療面からのフェムテックというのもあると思うのです。そういったものも，将来ユニコーンとかになるかもしれない。

司　　会： もうユニコーン２つくらい出ていますね。スイーツのユニコーンとフェムテック。

知事もいち早く，育児とか積極的に取り組むことを表明されましたが。

湯 﨑 知 事： そうですね。日本で最初に育休を取った知事となったわけですが，それも結局，女性

が活躍をするためには，男性がいろいろなことを分担していかなくてはいけない。そういうことのためにやったわけです。

司　　会：　我々も意識を変えていかなくてはいけない。既に若い人，変わっているかもしれません。

今の話を聞いていて呉商業の松尾さんとかどうですか。僕らの世代だと男性が働いて女性がみたいなイメージもあったのが，だいぶ世の中が変わってきていると，実際，今17歳，18歳はどうですか。

松　　尾：　私も育休は取っていくべきだと思っています。やっぱり女性一人一人の力は限りがあるので，そういうところで男性が，夫として助けるべきだと考えます。

司　　会：　呉三津田の高橋さんはどうですか。

高　　橋：　ひと昔前よりは，そういう意識っていうのはなくなってきていると思います。今，そういうことがあったときにSNSなどでもそうですが，結構騒がれることが多いのもあって，教育として教えられるというのもそうですが，そもそも仕事するのは男性だけじゃないし，女性だってと言うとなんか変な感じがしますが，普通に同じ人間ですし，性別は違えど，それは単なる性差であって個人ではまた違う話とかになってくるので，そういう意識とかはなくて，お互いが平等に自分たちができることを能力として，生かしていくことが大事なのかなと思います。

司　　会：　湯﨑知事，議論する我々とか，伝える我々の年代よりも若い年代，どんどん変わってきていて，どうですか，結構頼もしいですね。

湯 崎 知 事：　そうですね。そうじゃないと困るなと思うんです。

やっぱり子どもの頃から，結構埋め込まれる価値観なんですよね。例えば男の子らしくとか，女の子らしくとか言われて育っちゃうじゃないですか，それってなかなか，そんなに変わらない。

最近は例えば制服とかでも，女の子がスラックスを選べるようになったり，場合によっては男の子がスカートはいてもいいとかいうのもあったりして，実際にスカートをはく男の子もいたりするわけです。

そもそも考えたら，なんで女の子がスカートなのとか，なんで男の子がスカートはいちゃいけないのとか，よく考えるとそういうことです。男は青とか女は赤とか，そういう潜在意識にすごく埋め込まれているところがあるんですよね。

それは我々の世代はそういうところで育っているので，なかなか簡単に変わらないんですが，だんだんと時代の変遷によって，小さい頃から解き放たれていくという。小さい頃から，お父さんお母さんが二人とも働いていて，共同して子育てあるいは家事なんかもやっているのを見ていくと，世の中だんだんと変わっていく。そのスピードが遅いので，もっと早く変えなきゃいけないねということを僕らはやっているわけです。

司　　会：　確かに昔は赤ヘルの小説なんか出てきましたが，赤だったら，カープの赤は女性の赤だって，ちゃかされるシーンがありましたが，今はもう，そんなこと思う人ほとんどいないですから。世の中変わると，ただ変わるスピードはもっと大事だということですね。

続きまして安田女子高校，上田彩乃さん。上田さんもちょっと知事に話題提供お願いします。

参加者⑤

上　　田：　私は選挙についてというアバウトなテーマなんですが，私が今回，伺いたいことは，若者の投票率が広島県は比較的低いということと，広島県の女性議員，市長の割合が全国に比べて低いという2つのことについて，湯﨑知事がどう思っているのかお伺いしたくて，今私たち18歳で成人で選挙権を得ることができて，大体の人は選挙に行くでしょうということで，18歳，19歳の投票率が広島県は47都道府県中43位と，これは自分でもびっくりして，何でかというと自分では，地方でも結構栄えている地方のほうなのかなと思っているので，鳥取とか山口とか他の県よりは，ちょっと上なのかな，半分ぐらいなのかなと思っていたら，まさかの下の下のほうですごく驚いています。

女性議員，市長の割合も多くはないです。高校生の意見として，今回の選挙で投票できる条件を満たしていた周りの友達に，困ったこととか，どういうことを意識して選挙に参加したのかと尋ねたら，困ったことは何を基準に投票していいかも分からないし，最近の議員さんはどうしても若者より,お年寄りの方とか大人の方を意識しているため，高校生とか若い人たちにとって，それがどう影響するのかが，少し難しい言葉でしゃべられると理解が追いつかない部分があるということで，自分的にも投票って義務ではな

いから，調べるにもまあいいかという感じになっちゃうところがありました。
私の改善策，提案といたしましては，学校に選挙の本人とはいわず，政党の方に来ていただいて，本人の公約でなくても，政党がしたいことを高校生に分かりやすく，手短でいいので説明してもらうということだったり，小さい頃から学校の授業で，選挙について学習を取り入れるというのが私が考えた提案ですが，湯﨑知事はどうお考えかなと思って伺いたいです。

湯 﨑 知 事： ありがとうございます。
政治にそうやって興味，関心を持ってくれるというのは，とてもうれしいことだと思うんです。
これは高校生だけではなくて，世の中全体もそうなのですが，政治だとかがちょっと遠い世界のように思われたりするところがあったり，先般の大規模買収事件があって，何か悪いことをやっているんじゃないかみたいな，そんな変なイメージになったりしているので，それはやっぱり，変える努力をまずしなくてはいけないと思うのです。
いかに身近に，若い人たちに政治を感じてもらうかということでいうと，おっしゃるように多分学校に行って演説とかしないですよね。僕らも選挙で，選挙カーで回っていると，学校が近づくと黙るんですよ。

司　　会： そういうものなんですか。

湯 﨑 知 事： そういうもの。なぜかというと授業の邪魔をしちゃいけないという，そういう暗黙のお約束みたいなのがあって，選挙カーで回るときには静かにするんです。これは逆だなと。有権者もいるから，授業中は邪魔かもしれないけど，授業が終わったりしたら学校の前で演説会をやってみたりとか，いいですよね。

司　　会： 逆に今までは 30 歳，40 歳に届くような政策っていっぱい届けてくださったと思うのですが，どうですか実際，立候補したときのイメージで，18 歳，19 歳に届くような政策って，今後意識したりされますか。

湯 﨑 知 事： そうですね。最初僕が選挙に出たときには，まだ投票権なかったのですが，今あるわけだし，むしろ若い人たちに対する政策というのは，先ほど人材育成っていう話もしましたが，あるいは女性の活躍だとかとても身近なことじゃないかと思うので，そういうことを，しっかりとみんなに伝わるようにしていくというのは大事なことだと思うし，勉強というか学校の中で学習していくことも大事なことですよね。
これはすごく学校現場の先生方は,すごく頭を悩ませていて,議論するとどうしても,特に具体的になればなるほど,分かりやすいと思うのですが,具体的になればなるほど,特定の政治的な立場だとか，そこに踏み込んでしまう恐れがあって，それがやっぱり批判の的になったりしかねないということで，多分とても気にしているんだと思うんですね。
だけど本当は，僕はもっと子どもたち同士で議論するとか，扱ってもいいんじゃないかと思うんですが，ここはなかなか教育委員会も悩みながらやっているところかなと思います。

司　　会： 今回，上田さんは投票率が低いということで問題意識を持った。大事なことだと思うんですが，なぜここに意識を持てたのですが，ひとごとで済ますことなく思えたというのは。

上　　田： まず学校の社会科の先生が，18 歳投票権が決まったときに，あなたたちも，もうすぐだから 1 回でいいから，何も分からなくてもいいから，取りあえず行くには行ってみてねと，しつこいぐらいに言われたので。

司　　会： いい先生ですね。
逆にどうですか曽根さんとか，これからということになってくると思うんですが，意識として選挙とか遠いものに感じていますか，それとも自分たちもいよいよ参加していくんだと，どんな意識ですか。

曽　　根： 僕は来年なので,まだ遠いものかなと思ったんです。さっきのパワーポイント聞いて,僕も自分の意見を票で出せるというので，とてもいいものだと思ったので，18 歳になったら友達と行こうと思いました。

湯 﨑 知 事： 生徒会も選挙じゃないんだっけ。生徒会は選挙で決まるのかな。同じようなものだよね。

司　　会： 先般，民主主義はなぜ大事かとか，民主主義は本当に公平なのかみたいな議論もありますが，ある意味で選挙に行くとか，みんなで決めることの大事さとか，知事から教えていただきたいのですが，どうですか。

湯 﨑 知 事： それは生徒会と同じだと思うんです。そもそも生徒会のいろいろな予算もあったりして，それをどう使うかとか，１年間の活動をどういうふうに組み立てていくかとか，生徒会中心になって決めていくでしょう。それってやっぱり学校生活を楽しむ上で，とても大事なことじゃないですか。

それは学校ってコミュニティなわけですが，それが市だとか町だとかいうコミュニティがあり，県っていうコミュニティがあり，国っていうコミュニティがありということで，同じ構造なんですよね。

独裁者みたいな生徒会長が出てきて，その人が勝手に決めて，異論があったらお前ら黙れとか言って，異論を言ったらお前は退学だとかって，謹慎って言われたら嫌じゃないですか。

だからそういう仕組みをしっかりと大事にしていくことは，大事なことじゃないかなと。それは，ちっちゃければちっちゃいほど，そのコミュニティが分かりやすいと思う。国とかになると，どんどん分かりにくくなるんですが。

司　　会： 暴走しないように。図書委員が変わったら参考書ばっかり買うとかというのじゃなくて，そういったふうに置き換えると分かりやすいかもしれません。

STU の峯吉さん，選挙の話これからどんどん高まってくると思います。若者目線で，こうなったらみんなもっと参加するんじゃないかなってどうですか。

峯　　吉： そうですね，私もなかなか 18 歳になるからといって，投票に興味を持ちづらいかなと思うので，この学校の休み時間とかに分かりやすく演説してもらえたら，すごく興味が湧くんじゃないかなと思います。

私も高校生の同世代の子たちに，ちょっとでも興味を持ってもらいたいなと思って，何か学校に突撃とかしてみたいなと思っていたんです STU として。それなのですごくいい案だと思いました。

司　　会： いい案だと思いました。和みますね，ありがとうございます。

川口さんも話題提供があるということで，川口さんも政治とかに関連する話題なんですが，ひとつお願いします。

参加者⑥

川　　口： 私たちは小学校の低学年のころから，平和学習で平和についてずっと学んできました。学校によって登校日とか違うんですが，平和について学ぶのが当たり前になっています。ただ高校生になってくると，学ぶことも大事なんですが，これを伝えることも大切なのではないかと思うようになって，インプットするよりもアウトプットするほうが理解がより深まる気がするので，他校の高校生に広島の高校生が原爆のこととか，平和についてを，最近コロナ禍で，簡単にインターネット上とかで伝えることができるようになっているので，こういうことについて知事はどう思いますか。

司　　会： 平和学習の重要性は当然のこととして，形をインプット型からアウトプット型に変えてみてはどうかと，この発想，知事どうですか。

湯 﨑 知 事： 両方大事ですよね。高校生ぐらいになると，アウトプットもできるだけの知識だとか，あるいは表現力というか，それもできてくるので，アウトプットすると，特に人に説明をしようと思うと，考えをまとめなくてはいけないので，そうすると自分の考えていることがはっきりしたりとか，勉強でもそうだと思うのですが，人に教えると自分の理解が深まるという，そういうことがあると思うので，アウトプットにも参加してもらうというの，とても素晴らしいことだと思うんです。

インプットも引き続き必要で，そんなに簡単な問題でもないので，いろいろな人の，いろいろな立場の意見も聞きながら，インプットしながら，またアウトプットもしていく。その中でまた，どんどん高まっていくんじゃないかなと思いますよね。

県としては例えば，そういう場として，「グローバル未来塾 in ひろしま」というのをやったり，これは高校生がみんな集まって平和の問題についてインプット，つまり勉強もしながら，でもアウトプット，こういうことをやりたいとか，あるいは自分がみんなにプレゼンをするとか，そういうことをやったり，あるいは「ひろしまジュニア国際フォーラム」というのもあるんですが，これは世界中から高校生を中心に集まって，みんなで議論をして，こんなアクションをするべきじゃないかというのを，みんなでまとめてもらうんです。それもアウトプットの一つになってくるわけですが，それをまた実行したり，そういうこともあるので，そういう会に参加をしてもらったり，あとは広島，平和大使ってあると思うのですが，「ひろしま核なき持続可能な未来ユース大使」とちょ

っと長い名前なんですが，こういうのもやっていまして，今後また募集していくんですが，これはまさにアウトプットで，８月の頭に核不拡散条約の検討会合というのがあるんです。僕も行く予定にはしているんですが。今の未来ユース大使も一緒に行って，世界の大使だとか,そういう人たちにアピールする。そういうこともやってもらうんです。それもアウトプットの一つだと思うんですが，ぜひ来年の募集になると思うんですが，考えてみてもらったらと思います。

司　　会：　確かに我々も聞いた話覚えておかないといけないのですが，言ったことのほうがよく覚えていて，１言おうと思ったら 10 勉強しなさいと言われて，車の両輪なんですね，インプット，アウトプットとかって結局。ぜひ参考にしていただきたいと思います。

　そして最後に呉三津田高校の高橋奏羽さん。高橋さんからも話題提供お願いします。

参加者⑦

高　　橋：　僕からは今，呉三津田高校で行っている，三津田メーカープロジェクトというものについて紹介させていただこうと思います。

　まず活動の概要ですが，この活動は令和３年度から活動を開始したものです。比較的最近になります。これまでの活動としては三津田メーカープロジェクトのメンバーで話し合いを行ったり,生徒や先生方を対象にアンケート調査を行ったり,PTA の方だとか，企業の人事担当の方などとの意見交換会を行ったり，三津田，宮原，広の生徒会との三高合同意見交換会に参加したり，昨年度校則改定案を作成したりと，このような活動をしてきました。

　活動目的は，一番身近なルールである校則について考えることを通して，自分たちの身の回りの環境を見直し，さらによりよくデザインしていこうという活動になっています。そこで自分たちは，一番身近なルール，校則を改定するということをしているところです。

　これまでに改定された校則ですが,女子の黒タイツの許可,これは少し前になります。昨年度がソックスの色の追加，女子のワンポイントの許可，防寒具の話でいくとウィンドブレーカーの着用許可や，ネックウォーマーの色の範囲拡大，下着の色の範囲の拡大を改定しました。

　髪型はかっこにしてあるのですが，これは議論をしたのですがなかなか難しくて，いまだ議論の継続中のものです。

　また先ほどの話と少し関連するところもあるのですが，この秋ぐらいから女子のスラックスも導入される予定となっています。

　ここまで紹介させていただいたのですが，私は校則改定について興味があるわけではないです。この活動も，もともと校則を改定するということがメインだと捉えられることも多いのですが，僕はそう捉えずに自分の視野を広げたり，話し合いをすることに興味があってこの活動に参加しました。

　僕の目標として，先ほど将来については不透明な部分が多いとお話をしたのですが，１つ目標があって広い視野を持つ，幅広い視野を持つというのが自分の中で１つ目標としてあるので，それを目指す中での活動の１つとしてこの活動に参加しています。

　以上で紹介を終わります。

司　　会：　高橋さん，先ほどの校則のところ見せてもらっていいですか。

　どうですかこれを見て，うんうんと思うか厳しいと思うか，峯吉さん率直な感想をいかがでしょうか。

峯　　吉：　そうですね，厳しいですね。

司　　会：　厳しい。

峯　　吉：　厳しい。それでもだんだんとルールが柔らかくなっていって，すごくいいなと思います。髪型とか頑張ってください。

司　　会：　髪型とか，今までだったら高橋さん，どんなあれがあったんですか校則で。

高　　橋：　髪型については，まだ改定しているわけではないので，変わっているわけではないんですが。例えばよくいわれるところでいくと，ツーブロックは禁止だとか，おだんごだったりも高さが決まっていたりとか。

司　　会：　おだんごの高さ。

高　　橋：　一応耳の下までみたいな感じになっていて，昔の名残ということもあるのか，それもあっていまだに難しいところがあるので，議論してもいろいろなことを考えなくちゃいけないのもあって，自分たちはこう変えたほうがいいと思っても，先生方からの意見で

１個ゆるくしたら，どんどん崩れていくとか，それはよくあることだと思うので，そこのほうも，考えながらやらなければいけないなというところで，今すごく難しく考えています。

司　　会：　高橋さんあれですよね，校則の是非ではなくて，話し合ってみんなでやれば変わるというのは，何か今日の民主主義の話と投票率の話とすごく通じると思うのですが。自分の中で，変わったというこの体験とかで得られたものってどうですか。

高　　橋：　正直，僕は校則を変えたいと思ったことは一度もないので，というのも僕が校則を意識することが，普段の生活の中で特にないからなんです。それなので変わったからといって，僕自身のあれが変わるわけではないので，実感としてはとても薄いのですが，去年１年間プロジェクトのメンバーと話し合ったりする中で，こうしていったらいいよねとか，この校則の意味って実はここにあるよねということを考えながらやるっていうのはすごく大事だと思うし，本来ならば，その校則の意味とかを自分たちで話し合って，もっというと呉三津田全体で話し合って，先ほどの話かもしれないですが，共通認識としていくのが大切だなと思っています。

司　　会：　湯﨑知事，高橋さんが若くしてすごくいいプロセス踏んでいる気がするんですが，改めて今度知事の目線でどうですか。

湯 﨑 知 事：　政治というのは，そういうことですよね。例えばみんなで話し合って，何が必要で何が必要じゃないか，どういうルールが必要で，どういうルールが必要じゃないかということを決めていくということはまさに政治なので，とてもある意味でいうと身近に，それを実践してもらっているということだと思うのですが，結果ももちろん大事なんですよね。生徒会でどんなことにお金使うのかとか，今年行事はどんなことをするのかとか，決めた結果はもちろん大事ですが，そのプロセスもすごく大事で，そのプロセスがしっかりしていないと結果に対する納得感とか，そういうことも出てこないので，先ほど言ったような，独裁者が勝手に決めちゃうみたいな，今年は体育祭の代わりにお笑い 100 番やりますみたいな。

司　　会：　むちゃくちゃじゃないかというね。

湯 﨑 知 事：　そうそう，そういうふうになっちゃったら納得感ないので，プロセス自体も実践しているというのは，とても素晴らしいことだと思います。

司　　会：　安田女子の上田さん，先ほど投票率の話言われましたが，身近でこんな話しているだけでも，何か自然と投票率上がってきそうな気がし始めるですがどうですか。

　生徒会のあれと，いわゆる議会って全然違うと思うのですが，この辺の参加するということで，どうですか意識の変化っていうのは。

上　　田：　校則の改定については，安田でも同じようなプロジェクトが行われていて，ただ同じような感じ同じような工程ではあるんですが，やっぱり重みが違うかなって思っていて私は。

　やっぱり校則というのは自分たちに関わることで，女の子の私からしたら，私たちの学校でいうと，もともと三つ編みか二つ結びしか髪型が駄目だったんですが，正直，高校生にもなって三つ編みとかって恥ずかしいじゃないですか。そういう女の子からしたら，そういう意見もあるんだよとか，そういうのは簡単には言えるけど，やっぱり議会とかそういうところになったら，自分の意見を言えないとかそういうのがあって，投票率を上げていくためには，こういう簡単な話，高校生にも広島県はこうなんだよとか分かりやすい，例えば個人的に K-POP が好きなんですが，私たちがもし関心を持つとしたら，議員さんがもし公約として，広島に大きなドームを作りたいと言ったら，多分，関心が集まると思うんですね。人に関心をもたせるというのが投票以前の，第一の問題だと思っていて私は。人の関心をどうやって引き寄せるかというのと，ことの重さがこれとは違うかなと思っています。

司　　会：　今日いろいろな話で一番参考になったのが，呉商業の新生徒会長の曽根さんだと思うのですが，いろいろな話を踏まえて，これからどんな呉商業を作っていこうと。なんでここで誓わされるんだという話ですが。どうですか参考になった部分とかっていうと。

曽　　根：　呉三津田の校則改定がとてもいいなと思って，生徒会だけではなくて，普通の生徒の人たちの意見も大切なんだと思ったので，今，呉商ではクラスルームというパソコンを使っての意見交換みたいなものがあるので，それでみんなの意見を集めて，呉商業をよりいいものにしていきたいと思います。

司　　会：　分かりました。

　呉三津田の高橋さん，話題提供ありがとうございました。

高　　橋：　ありがとうございました。
司　　会：　分かってきましたよ，身近なところがよくなる，自分が参加してよくする，そうすると投票率も世の中もよくなるという。
　峯吉さん，改めて今日のお話なんですが，トータルで聞いて感想とかいかがですか。
峯　　吉：　そうですね。私は社長をやっていまして，自分で（仮）なんですが，株式会社で服のファッションブランドをやっていたので，商業とか経済を回していこうという話を聞いて，すごく勉強になるなというところもありましたし，みんなの意見が，これからの広島につながっていけたらいいなと思いました。勉強になりました，ありがとうございました。
司　　会：　いい役員候補いっぱいいますので，引き抜いてください。
峯　　吉：　ぜひお願いします。
司　　会：　ぜひっていいながら，きょろきょろ選んでいるでしょう。
　峯吉さん，今日はありがとうございました。
　お時間迫ってきました。湯﨑知事，今日はいろいろな話，割とテーマは一貫していたかなと思うのですが,今日感じたことと,最後ひと言皆さんにメッセージお願いします。
湯 﨑 知 事：　そうですね。今日本当に未来のこと考えてくれていたり，政治のこと考えてくれていたりとかとっても頼もしくて，よく若い子はとかって言われがちなんですが，決してそんなことはなくて，自分たちのこともそうだし，社会のことも考えてくれて，しっかり育ってくれているなという。すみませんね。
司　　会：　目線が。
湯 﨑 知 事：　そうそう僕らはそういう世代なんで，そういうふうに思っちゃうんですが，これから広島県を引っ張っていくのは皆さんになるので，そういうときに無関心じゃいけないし，自分だけじゃなく，いろいろな人の意見を聞いていくという，そういうプロセスを大事にすることも大事なことだし，いろいろな身近なところで，実はそういうことはあると，出てくると思うんですよ。
　PTA だとか，みんなも子どもが生まれてくると，そういう活動に関わってきたりするかもしれないし，あるいは地域でのいろいろな会合があったりするじゃないですか，もちろん行政もそうですが，会社の運営とかもそういうこともそうだし，ぜひ今考えていることを続けて大きくなって，もう大きいけど，大人になってもひとごとにしないで自分ごととして，しっかりと取り組んでいってもらえればと思います。楽しみですね。

閉会

司　　会：　第３回ということで，毎回，知事のエールで終わっているのですが，今回むちゃ振りで急に変えて，安田女子高校の上田さん，最後に知事へのお礼の言葉をひと言，言っていただいて,拍手で閉会にしたいと思います。急にすみません,台本になかったですね。
　上田さん，ひと言お願いします。
上　　田：　本日はこのような場に来ていただき，また設けていただき，こういう交流会ができてすごく楽しく思いましたし，よりこの広島への関心が，個人的には高まったかなと思います。今日１日ありがとうございました。
司　　会：　ありがとうございました。
　以上をもちまして「RCC スクール 湯﨑知事と語ってみた」supported by 田宮パーツ終了とさせていただきます。